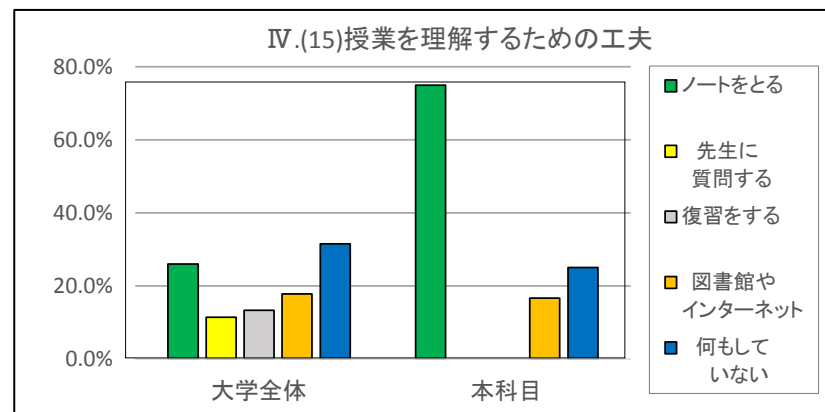


※レーダーチャートの平均は4段階評価 4(そう思う)、3(ややそう思う)、2、(あまりそう思わない)、1(そう思わない)

〈※複数選択可項目〉	ノートをとる	先生に質問する	復習をする	図書館やインターネット	何もしていない
IV.(15)授業を理解するための工夫	75.0%	0.0%	0.0%	16.7%	25.0%



	設問No.	科目平均	全体平均
自身の受講姿勢	I.(1)	3.58	3.45
	I.(2)	3.75	3.56
	I.(3)	3.42	3.07
講義内容・方法	II.(4)	2.50	3.01
	II.(5)		
	II.(6)		
	II.(7)	3.58	3.33
	II.(8)	3.67	3.42
	II.(9)	3.42	3.30
	II.(10)	3.83	3.23
	II.(11)	3.75	3.21
	II.(12)	3.83	3.48
	II.(13)	3.67	3.45
満足度	II.(14)	3.58	3.41

	本科目平均	全体平均
自身の受講姿勢 I.(1)~(3)	3.58	3.36
講義内容・方法 II.(4)~(13)	3.53	3.30
総合的満足度 III.(14)	3.58	3.41

授業年度	2017年度後期
時間割番号	15104
科目名	国語学 I
教員名	桑原 祐子

①授業計画の達成度について

本講義は、高等学校までの学習とは異なった専門分野である国語学入門を終えた後の個別領域についての講義である。形態・意義(音韻・文字・語彙)に関する専門領域を扱った。専門用語を理解することや母語であるため個々の言語現象を抽象化することに難しさを感じたようであった。難易度の高さは、そういった結果であると認識している。今後の課題であろう。以上のような問題はありますが、概ね目標は達成できたと認識している。

②授業の進め方について

受講人数は適当な人数である。座席指定をしているためか、私語は少ない。授業を受けるための心得は、はじめの数回の授業で厳しく注意を与え、それ以降は、概ね快適な環境で授業が進められたと感じている。ノートの取り方が不足している。テキストを通読することをアナウンスしているが、なかなか自主的には行われていない。専門的な辞書を見ることを推奨しているが、実現されていないので、時間を取って確認する必要性を認識している。この点が反省点である。

③アンケート全体を通しての自己評価、及び、今後の授業改善計画について

静かに整然と授業は進めることができているが、内容的な難しさが影響しているのか、あるいは、受講生の関心の持ち方に差があるのか、日常的な言語実態を観察して、ある程度の分析をして、理解することはなかなか難しいようであった。主体的に様々なことばの実態を観察することについての指導が課題であろう。また、辞書類、その他の国語学のシリーズもの等の書籍を受講生に活用させることも今後の課題である。